

# 大学における金融教育の実践授業

～仮想取引体験授業の有効性と課題～

## 金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。この「コーナー」では、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、上智大学経済学部の川西諭教授がオリジナル教材を作成し、同大学で実践している金融教育の取り組みについてご紹介します。

### 大学における ファイナンス教育の試行

「世の中のいたるところでバブルとその崩壊が繰り返されているのは、市場参加者の相場観に問題が

あるからではないか」——上智大学経済学部で教鞭をとる川西教授は、そうした問題意識を投げかけていくことも金融教育の役割であるはずだと言います。川西教授は、10数年前より、「扱う問題が学生

にとつて『身近な問題』ではない」「完璧な金融市場」の説明に終始してしまっている」という2点を大学におけるファイナンス教育の問題点と考え、金融市場における「正しい判断を知ること」と同時に「自分がどういふ過ちを犯す危険があるかを学ぶこと」を自身の授業の目標にしてみました。

そこで、アメリカで成果を上げている「仮想取引体験授業」の導入を決定。上智大学から教育イノベーション・プログラムという財政的な支援を受け、大学院生と教材の試行テストを行いながら、日本独自の内容を折り込み、上智大生の知識や能力に合わせた教材を作成していきました。

### 仮想取引体験で 授業はどう変わったか

仮想取引体験とは、学生たちに



東京都  
上智大学経済学部  
川西諭教授

■ 仮想取引体験授業の講義概要  
(2010年秋学期 対象：2年生)

ALS(アクティブ・ラーニング・セミナー)  
～仮想取引実験で学ぶ経済の仕組みと経済現象～

全15回

1	イントロダクション：アイス・ブレイキング
2	魚市場の実験
3	魚市場の実験に関するディスカッション
4	中古車市場の実験
5	中古車市場の実験に関するディスカッション
6	お金の貸し借りの実験
7	お金の貸し借りの実験に関するディスカッション
8	オークションの実験
9	寄付に関する実験
10	寄付に関する実験に関するディスカッション
11	株式市場の実験
12	株式市場の実験に関するディスカッション
13	チームワークの実験
14	チームワークの実験に関するディスカッション
15	授業全体に関するディスカッション

お金の借り手や貸し手、あるいは株式市場の売り手や買い手の役割を与えて、仮想的に取引してもらうものです。上手く取引をすれば、利益や得点が高くなるようなルールになっており、学生たちは「ゲーム感覚」でファイナンスの知識を学びます。魚市場実験、中古車市場実験、お金の貸し借り実験、オークション実験などと段階を追って難易度が高くなるよう構成されており、川西教授は確かな手応えとして、実験授業の方が学生たちの学習態度が積極的になり、教室の雰

囲気も変わったと感じたそうです。「ゲームには明確で分かりやすい目標があり、目標を達成すると褒められたり自己肯定感を感じたりすることができます。また、失敗しても何度でも再チャレンジできます。このように、熱中できる要素がふんだんにあるわけです」と、川西教授は学生たちが夢中になる理由を分析しています。仮想取引には利益や得点という明確な目標がありますが、どのように取引をするべきかについては川西教授から一切指示を出しません。

学生たちが自由に考えて取引を決め、友人と利益や得点を競うなどの楽しみを見つめます。他の学生と交渉して取引する刺激的な経験を通じて、仮想取引を「自分の問題」として真剣に考え、答えを探そうと夢中になってくれるのだそうです。学生たちは「これまで学んできた経済理論が実験を通して実感できた」と実感しています。川西教授は理論+実践によって、学生の理解の深化に大きな成果を残すことができますと言います。

## 仮想取引体験授業の課題

一方で川西教授は授業を行う上での課題として、「その体験から何を学ぶべきか」という議論をしっかりと行うことが重要だと言います。そのため、『決して面白いだけの授業で終わらないこと』『学生の知識や能力に合った、難し過ぎず簡単過ぎない課題を準備すること』『学生に間違った教訓を学ばせないこと』を指導ポイントとして、実験をやった次の回の授業では、必ず解説やデイスカッションを取り入れています。上智大学の学生には上智大学の学生のレベルに合った教材、違う学校ではその学校に相応しい教材を準備することが不可欠だと川西教授は言います。

仮想取引体験で、川西教授は失敗しそうな学生にも一切アドバイスを与えません。代わりに、学生には答えを見つけないという過程では「失敗してもいい」という認識を持たせ、積極的に試行錯誤できるようにしています。「失敗しても、そこから自分の悪い癖や間違った認識に気づき、それを正すことができれば、

将来、実際の金融取引での失敗を避けることができるようになるでしょう」と川西教授は話します。

しかし、なかには、「ゲーム感覚」「リセットできる」ということで、学生が必要以上のリスクを冒してチャレンジするなど、必ずしも狙った通りの指導結果を得られないこともあると言います。「現実なら手を出さない商品でも、ゲームだから」と、大胆に挑戦するのでありますが、それでは明らかに現実とのギャップが生まれてしまいます。学生たちがいかに想像力を働かせて、現実を正しく理解できるかが今後の課題です」。

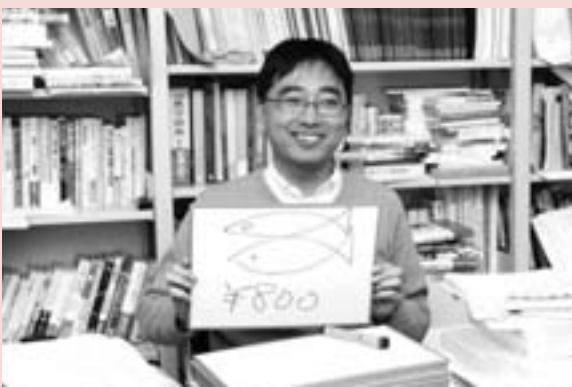
### 上智大学における金融教育と学生たち

川西教授が今、教え子たちと接していて感じるのは、「人前で失敗したくない」という意識の強さだと言います。そのため、仮想取引体験授業では、まずその意識を変えていくために、最初の導入時に「間違うのが当たり前」と思えるような、頭を使う簡単なゲームを何度も行い、失敗して負ける経験を重ねることで、教室の雰囲気や和ませます。「この授業では失敗してもいい」「この仲間内なら

恥ずかしくない」という意識を持たせていく段階が、どうしても必要とのことでした。

前述の失敗を恐れず大胆なリスクを犯すタイプの一部の学生とは正反対の、現実的で安定志向の学生が非常に多いと川西教授は感じています。

「現代社会の世相を反映しているのだと思いますが、今の学生たちには将来への不安感と人生で冒險したくない意識が強く、就職で失敗して負け組になりたくないから、就職で不利になると言われている海外留学はしたくないと考え



■「魚市場の実験」受講学生の感想

いままで想像するしかなかった市場価格の変動を実際に体験できたというのが新鮮で面白かったです。

いままでは経済学の計算問題において需要関数や供給関数の多くは初めから所与のものであった。需要関数や供給関数についてあいまいなイメージしか持っていなかったので、ディスカッションで“具体的にこんな風に需要関数や供給関数が作られていくんだ!”と少し感動した(同時に自分が勉強不足なことに気付いた)。

教授の話聞いてノートに書くというだけの受け身的な授業ではなく、実験を通して能動的に、アクティブに勉強することで経済学が身につくと思う。

実験について考えていくなかで、1人だと考え方が偏りがちになり間違えた考え方をしていてもそれに気付かないが、ディスカッション形式だと自分の考えでは思いつかなかったこともでてくるし納得しながら進められたのですごく楽しかった。

魚の取引実験で自分が売り手と買い手になることで、どんな価格にすれば買い手が買うのかということを実際に考えながら行い、とても勉強になりました。このように実験する授業は初めてだったので楽しかったです。実験してみると経済についてよりわかりやすく学べる気がします。

今までの経済の勉強は紙と向き合ってきたが、実際に実験を通じて経済の理論を確かめたことで、経済を勉強することがいかに面白いのかを改めて感じました。特に価格が下がることが、人間の心理によって影響をされる場合もあるということに驚きました。

小さな経済モデルの実験においても豊作貧乏という現象が起こり、また、そのような現象も以前に習った需要曲線・供給曲線の関係で説明がつくことが特に印象に残った。

市場について、売り手買い手それぞれの行動原則について、この実験を通じてなんとなくわかったことを、その後のディスカッションで細かく分析し、グラフとして構築していった。まずなんとなく自分の感覚としてつかんだものを、理論に当てはめて考えていくという方法は、なかなか通常の授業ではできないことで、とても新鮮だった。

結果と理論予想が異なる場合があった。このようにして、企業がうまくいかないこともあるんだろうなあと思った。

紙の上で学んだ「需要曲線」「供給曲線」「均衡価格」「カルテル」「豊作貧乏」などといった理論や現象を実際にこの身で体験した時、今まで頭の中にあるだけだった知識が、じわりと脳に染みこんでいくのを感じた。

とても面白い実験でした。セッションごとに売り手や買い手の行動がそれぞれ変わって、考えながら動かないといけないので、すごく頭を使ったように感じました。自然と周りの人と交流することが出来て良かったです。



る傾向があります。アルバイトで稼いだお金も将来のために貯金しているのだと言うのです。本当はもっといろいろなことに挑戦をして、自分自身にどんどん投資していく大切な時期なのですから残念です」と話します。

経済学を学んだ教え子を、社会で役に立つ人材に育てたいと願う一方で、それは大学教育だけでは困難ではないかと感じているという川西教授。とはいえ、今後とも教材に改良を重ね、ますます教育効果の高い仮想取引体験授業を展開していこうと情熱を注いでいます。

大学における金融教育の実践授業

～仮想取引体験授業の有効性と課題～

東京都

上智大学経済学部 川西諭教授